



270号  
2022/1

日中文化交流市民サークル'わんりい'  
町田市三輪緑山 2-18-19 寺西方  
〒195-0055 ☎ : 044-986-4195  
<http://wanli-san.com/>  
Eメール:t\_taizan@yahoo.co.jp



豊収的喜悦(豊作の喜び) : 白家塬は中国陝西省の北西部に広がる黄土高原のど真ん中にある。ゴビ砂漠などから飛来した細かな黄色い砂が堆積し、見渡す限り広がる黄色い大地は栽培できる作物の種類が少ない乾燥地帯だ。少女は麦の収穫期の喜びを伝える。

(陝西省延川縣白家塬 2001年6月 撮影:周路)

'わんりい' 2022年1月号の目次は20ページにあります



今月の成語は余りポピュラーではないようで、家にあるちょっと大きな子供用の成語辞典にも載っていませんでした。

・ > ・ > ・ > ・ > ・ > ・

南北朝の時代、北魏景穆帝の玄孫(孫の孫=やしやご)で元暉業という人がいました。彼は正直で気骨のある人でした。北魏が北齊によって滅ぼされた後、北齊の神武帝が、北魏の孝武帝の皇后を魏の光庄帝の甥の元韶に降嫁させました。元暉業は、このことで北齊の文宣帝の前で、元韶のことを痛烈に批判しました。文宣帝は(齊神武帝をやり方を批判したと解釈し)激怒しました。そして、直ちに元暉業と元孝友の二人に死罪を言い渡しました。元孝友は驚いて、慌ててしまい、どうしたら良いのか分からず、ただオロオロするばかりでしたが、元暉業は驚き慌てず、従容として死に臨みました。



挿絵：満柏画伯

・ > ・ > ・ > ・ > ・ > ・

**言葉の意味：**惊惶=恐れて慌てふためく、失措=どんな方法も思いつかない。驚きあわてて、なすべを知らない様子

**使用例：**地震や洪水などの災害に遇ったら、先ず冷静になるべきだ、決して慌てふためいてはいけない。

・ > ・ > ・ > ・ > ・ > ・

お話の時代を見ると、晋が滅んで中国全土に群雄が割拠し、五胡十六国と言われた時代も徐々に収束し、長江より北を鮮卑族拓跋氏が統一し北魏という国を建てました。拓跋氏は中原の文化を好み、統治する間に漢文化との同化が進み、「元」姓を名乗るようになりました。やがて北魏は分裂し

て西魏と東魏に分裂しました。その東魏が国内の有力者高氏に乗っ取られ、北齊という国が出来た頃のお話です。

お話の中に「北魏の景穆帝」と出てきますが、この景穆帝という人は皇帝の位についたことはありません。この人は北魏4代皇帝の兄弟で、死後、5代皇帝となった実子の文帝により贈られた追号なのです。北魏には特にこのようなケースが多いようで、他にも4人ほどこのような皇帝がいます。

登場人物の元暉業、元孝友、元韶は皆、東魏の王族に連なる人たちです。元暉業と元孝友が、北魏を滅ぼした高氏の北齊に対し協力を拒んだのに、元韶だけは北齊に協力しました。このお話は、元暉業が、北齊の文宣帝に随行していた元韶に、彼の行為を厳しく非難したのを、文宣帝が聞きつけ、元暉業と元孝友に死罪を言い渡した時のお話なのです。

これより前、北魏最後の皇帝となった孝武帝は高氏と対立して西へ脱出、宇文氏を頼って西魏が出来ました。その際取り残された孝武帝の皇后を、西魏の実力者高氏が臣下となった元韶に褒美として与えました。このようなことは、遊牧民族の間では当然のことと認識されていましたが、漢民族の文化では、許されない行為でした。

北魏で漢文化への同化を進めてきた元暉業にとっては、同族の元韶が、このいかにも牧畜民族らしい風習を受け入れたことが許せなかったのも、激しくなじたのです。それを高氏出身の皇帝が、高氏への侮辱と捉えて処刑したわけです。

なお、この言葉、満柏画伯のお話では、「**惊惶失措**」の方が一般的だそうです。

## 杜甫の絶句二首

桜美林大学名誉教授 植田渥雄

杜甫は生涯苦難の道を歩み続けた詩人です。24歳で科擧の試験に失敗した後、都長安に出て仕官の道を求めますが、うまくいかず、困窮のどん底に喘ぐうちに安祿山の乱に遭遇し、賊軍の手によって長安に幽閉されます。この時詠んだのが、かの有名な『春望』です。この後、脱出に成功し、新皇帝肅宗の下で左拾遺の職を得ますが、後に疎んぜられて左遷されてしまいます。その後官を棄て、妻子と共に更に苦難の旅を続けたのち蜀の成都に辿りつきます。乾元2年(759)12月、杜甫48歳の時です。ここで古い友人たちとも巡り合い、彼らの助けを得て、しばし安穏な日々を過ごすこととなります。成都で過ごした数年間は、杜甫の人生の中では最も幸せな期間であったと言えます。そのことは詩作の中からも読み取ることができます。

今回はこの時期の作品の中から2首選んでみました。

jué jù èr shǒu zhī èr  
絶句 二首之二

jiāng bì niǎo yú bái shān qīng huā yù rán  
江碧鳥逾白山青花欲然  
jīn chūn kān yòu guò hé rì shì guī nián  
今春看又过何日是归年

山の青さを映し出し、紺碧に輝く川面には純白の水鳥たちが群れ遊ぶ。山には真っ赤な花々が燃え盛るように咲き誇る。今年の春も虚しく過ぎていく。何時になったら故郷に帰れることか。

[訓読]

こうみどり とり いよいよしろ やまあお はなも  
江碧にして鳥逾々白く 山青くして花然えんとす  
こんしゅんみすみす ま す いず ひ こ きねん  
今春看々又た過ぐ 何れの日か是れ帰年

[和訳]

みどり とり しろ やまあお はな も  
水は碧に鳥なお白く 山青くして花は燃ゆる  
いたすら はる す いず  
徒に春は過ぎゆき 何れの日にか我は帰らん

jiāng pàn dú bù xún huā qī shǒu zhī liù  
江畔独步寻花 七首之六

huáng sì niáng jiā huā mǎn xī  
黄四娘家花满蹊  
qiān duǒ wàn duǒ yā zhī dī  
千朵万朵压枝低  
liú lián xì dié shí shí wǔ  
留连戏蝶时时舞  
zì zài jiāo yīng qià qià tí  
自在娇莺恰恰啼

[訓読]

こうはん どっぼ はな たず ななしゅ ろく  
江畔に独歩して花を尋ぬ 七首の六

こう しじょう か はなけい み  
黄四娘家の花蹊に満つ  
せん だ ばん だ えだ お た  
千朵万朵枝を圧して低れ  
りゅうれん たわむ ちょう じ じ ま  
留連して戯る蝶は時時に舞い  
じざい なまめ うぐいす こう こう  
自在に嬌く鶯は恰恰と啼く

\*時時に=常に。\*鶯=コウライウグイス。日本の鶯とは別種。多彩な鳴き方で知られる。\*恰恰=鶯の鳴き声を表わす擬声語か。一説に、ちょうど折よく〜。

[和訳]

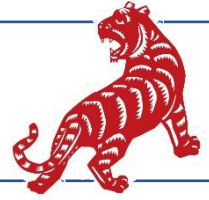
こうねえ こみち  
黄姐さんの屋敷の小径  
せん だ ばん だ  
千朵万朵の花しだれ咲き  
蝶はヒラヒラ舞い纏わりて  
ウグイス自在に囀り歌う

黄四娘とはいったい何者なのか、はっきりしたことは分かりませんが、この土地の名妓であったという説もあります。だとすればおそらく歌舞に長けていたのでしょう。後半の二句はそのことを暗示しているようにも思えます。杜甫はこの頃、友人の推挙を受けて、形だけとはいえ工部員外郎という官職に就いていたので、酒席を共にしたこともあったかもしれませんが。もしかして道すがら秘かに胸をときめかせていたのでは……？



## 寅年とことわざ

寺西俊英



2022年は、寅年ですね。「寅」は十二支の3番目で、方角の名称（東北東）であり、昔の時刻の名称（今の午前4時頃）でもあります。中国で十二宮の各々に獣を当てはめたところから、子は鼠となったように寅は「虎」となったそうです。虎は、中国語ではご存知のように「老虎」と言いますね。老鼠はネズミのことですが、どちらも年老いたという意味はありません。中国の東北地方では、今でも虎が出没します。昨年ハルビン市の北の伊春市に住む友人が、ドライブ中に前方を虎がゆっくりと横切り、その姿をスマホに撮影したものを送ってくれました。考えただけでも怖いですが、この地方の人には意外に身近な存在なのかも知れません。

ところで老虎を中日辞典で引きますといくつかの意味が書かれています。例えば、〈権力を利用して大悪事を働く人〉とか、〈気の強い人〉と怖くて強いイメージから派生したものばかりで、良いイメージの意味は出ていません。それを裏付けるように「母老虎」は、かかあ天下とか気性の荒い女性の事を言います。「秋老虎」は残暑のことです。秋になっても真夏の猛暑が来るのを、虎が暴れているとイメージしたのでしょうか？ さらに「紙老虎」は張り子の虎のことでやはりいいイメージではないですね。

では諺はどのような印象なのでしょう。中国人の友人に日本の虎に関する諺で、同じように中国にもある諺を訊いてみました。次のようにかなり両国に共通した諺があることが分かりました。順にご紹介します。

- 「虎の尾を踏む」⇒虎尾春氷  
虎の尾を踏み、春の氷の上を歩くように非常に危険なことを表しています。
- 「虎を野に放つ」⇒放虎帰山

虎を放って山に帰すことで、禍を将来に残すことの喩。日本では、「千里の野に虎を放つ」ともいい、禍のもとになる危険なものを野放しにすることを喩えています。

- 「騎虎(きこ)の勢い」⇒騎虎難下  
虎に乗ったら降りるのは難しいことから、物事に勢いがついて途中で止めにくいことをいいます。
- 「虎穴に入らずんば虎子を得ず」⇒不入虎穴、焉得虎子  
後漢書「班超列伝」にある言葉で、何事も危険を冒さなければ成功は収められない、という喩。
- 「虎は死して皮を留め、人は死して名を残す」⇒豹死留皮、人死留名  
五代十国（907年～960年）の頃の故事。豹が死んだあとは美しい毛皮を残すように人も死んだ後に立派な名を残すように心がけよ！ という教え。日本では虎となっていますが、中国では豹と言うのが面白いですね。
- 「龍頭蛇尾」⇒虎頭蛇尾  
初めは盛んで終わりが振るわないことの喩ですね。これも日本の諺では竜ですが、中国では虎になっています。
- 「虎の威を借る狐」⇒狐假虎威  
権力や権勢のあるある人の力をかさに着ている人の喩。



このように同じような諺が多いのは、日本が中国の文化の影響を受けているからでしょう。前段で書いたように日本には虎は棲んでいませんが、中国では実際に棲んでいますから虎に関する諺は多いのでしょうか。ただ5つ目の諺にある豹は中国には棲んでいませんがなぜ虎でなくて豹なのでしょう？



今日のお題は明代の画家・文人として知られる唐寅(1470~1523)の『画鶏』という七言絶句です。明代と言えば、近体詩が発展した唐代や、詞が発展した宋代に比べると、詩形の上では際立った特徴が見られませんが、文化交流という

点から見れば、日本と大陸の関わりが深く、日本は大きな影響を受けた時期だったそうです。中国では明代中期、日本では室町末期に当たります。交流は江戸時代の鎖国後も、長崎の出島を通じて行われました。インゲン豆や煎茶の習慣を広めたというインゲン禅師が京都宇治に黄檗山萬福寺を創建して、黄檗宗の開祖となり、また明代に成立した『唐詩選』をはじめ『水滸伝』や『三国志演義』等が日本に入ってきたのもこの時期でした。

唐寅という人物は日本では一部の美術マニア以外にはあまり知られていませんが、中国では、字の唐伯虎で広く知られ、この『画鶏』という詩は小学一年生の教科書にも載っているそうです。「平易で平仄がしっかり守られていて、起承転結も実に見事。こんな詩を通して小さい時か

ら漢詩の作法を教えておくと、一生忘れないのではないかと思いますね。漢詩を作る初心者にも模範になるような作品です」と植田先生。

さて、作者の唐寅は画家としても有名で、この作品も絵が先あって、画讚として添えられた

ものであったと思われるのですが、詩がついた作品が残っていないので、どの鶏の絵の画讚かは分からないそうです。「この詩の作者は非常に優秀な人で、郷試という科挙の一次試験には解元(郷試の首席合格者)で合格したものの、二次試験(会試)の時に不正があったとかで不合格にさせられ、それ以来役人世界に見切りをつけて一切受験しなかったという、一般の文人とは違う人生を送った人です。恋愛小説の主人公



唐寅像 明・張璽 画(ウィキペディアより)

にもなったりして、人間として面白い人物です」と植田先生。私もネットで探して唐寅の「鶏」を検索してみると、リアルタッチで堂々とした鶏の絵がたくさん出てきました。今から500年ほど前といえば近代に比較的近く、作品数も多いからなのか、今でも実作が購入できますようです。では、早速内容を見ていきましょう。

## huà jī 画 鸡

tóu shàng hóng guān bú yòng cái  
头上红冠不用裁

mǎn shēn xuě bái zǒu jiāng lái  
满身雪白走将来

píng shēng bù gǎn qīng yán yǔ  
平生不敢轻言语

yī jiào qiān mén wàn hù kāi  
一叫千门万户开

とうじょう こうかんさい  
頭上の紅冠裁を用いず  
せつはく まさ  
满身雪白走りて将に來らんとす  
へいせい  
平生敢て、言語を輕んぜず。  
一たび叫べば、千門万户開く。

### 一句目（起句）

起句ではまず人目を引きつけます。

頭の上に付いているけいかん鶏冠（トサカ）は人の手を加えなくても立派だ。裁を用いず、とは人が裁縫で作る必要がないという意味です。

### 二句目（承句）

承句では起句を受けて鶏の姿に動きを与えています。

全身真っ白で、こちらに歩いてくる。走将来の「将」は明代に口語で多用された意味のない置き字みたいなもので、敢えていうなら、現代語の「走过来」だそうです。訓読で「まさに～せんとす」と読めば「今にも～」という感じで強めのニュアンスを感じますが、同じく明代の小説『水滸伝』にもこの意味のない「将」が多用されているそうです。

### 三句目（転句）

鶏は常日頃から言葉を軽んじるようなことは敢てしない、つまり常に言葉を重んじている、という意味です。

「え？ 鶏が？」と不思議な気持ちになりますね。これが転句の特徴です。

### 四句目

「だが、鶏が一たび鳴けば、千門万古開くのだ。」

なるほど、という感じですね。「昔は鶏が鳴いたら夜が明けたということで、人々が起きて活動を始める時です。鶴の一声で、皇帝から庶民までがいうことを聞く、すごいだろう、と、これでこの詩は結ばれています」と植田先生。「視覚で始まり、聴覚で締めている点も見事ですね」。このように作品全体をしっかりと締めくくることが結句です。

個人的に鶏はちょっと苦手な私ですが、唐寅の描いた鶏は、堂々として立派です。燃えるような赤い冠を頭に被り、純白の羽をした鶏。紅白と言えば、昔は北京の会社で仕事をしていた時、中国人は赤と白の組み合わせが好きなんだな、と思ったことがあります。そういえば、殷の旗は白、周の旗は赤、運動会も紅組、白組、歌合戦も紅白。人間にとって多大な恩恵をもたらしてくれる鳥がこの紅白の衣装を纏っていること不思議をつい考えてしまったのでした。今は卵とお肉でお世話になっていますが、昔は目覚まし時計の役割もしてくれていたのですね。改めて鶏はなんて有難い生き物だろうと思ってしまいました。



唐寅作、枯木寒鸦図の切手(百度百科より)

## 河南省をめぐる友好提携都市

文と写真＝村上直樹

残念ながら、コロナ禍はまた新たな年に突入してしまっただ。個人的には、コロナ前は毎年仕事あるいは観光で中国行きを続けてきたが、それも2020年1月4日～8日の大連旅行を直近最後に2021年は途切れてしまった。河南省（中原）については、すでに行くことができずに2年が経過した（直近最後は2019年12月24日～28日）。しばらくは写真などで中国旅行を懐かしむ日々が続くそうである。

という訳で、以前の写真を整理していると、あらためて目に留まった1枚がある。かつて2021年3月号の「雑感」でも少し紹介した、2007年5月27日鄭州市にある「鄭州黄河風景名勝区」に1人で出かけた際に撮ったもので、「中日職工友好植樹記念碑」の写真である。名勝区内のリフトで丘に上り、黄河を眼下に眺め、「禹王像」、「哺育像」などを鑑賞したのち、歩いて下まで戻る途中、ひっそりと佇んでいるのを偶然見つけた。

碑を読むと「中華人民共和国河南省総工会、日本国三重県労働者福祉協議会、1996年10月7日立」と書かれている。中国の「工会」は日本の労働組合に当たるから、河南省と三重県の労働団体間の友好関係を記念するものとわかる。当時、何かの催しがあって、三重県の労働者団体が鄭州市を訪問したのであろうか。『河南日報』を調べてみると、1996年10月8日付けの第一面下の方に「省政府举行三重県河南省結好十周年慶祝会」（省政府が三重県・河南省の友好関係締結十周年の祝賀会を举行）という見出しがある。

記事は前日（10月7日）の夜、鄭州海天大酒店で開か



中日職工友好植樹記念碑(2007年5月)

れた祝賀会の様子を伝えている。河南省側の代表は李成玉副省長であり、三重県からの参加団体として、県民友好訪中（訪華）団、経済訪中団とともに、労働者福祉協議会訪中団の名前が見える。名勝区の碑は、この式典参加のための訪豫（河南省）に合わせて行われた植樹を記念して建てられたものであろう。

同記事によると、この時は、三重県婦女訪中団（中国語のまま）も来ているが、式典の前に河南省を離れたようである。婦女訪中団では、よくわからないので、前後の『河南日報』を調べてみると、10月5日付け記事より、三重県婦女海外交流研修訪中団が正式名称であったらしい（団長は高田短期大学助教授の松岡雅子氏）。この訪中団は、河南省婦女兒童工作委员会副主任の黄晴宜氏にも面会し、両国における女性の地位向上と権利保護を巡って意見交換をしている。

では、そもそも10周年の10年前、締結式自体どのように行われたのであろうか。10周年の記事には書かれていないが、締結日が1986年11月19日とわかったので、翌日（20日）の『河南日報』の紙面を探すと、果たして、ここでは一面トップ（題字のすぐ下）に「我省与日本三重県締結友好關係一協議簽字儀式昨日在日舉行」（我が省と日本の三重県が友好関係を締結した一協議の調印式が昨日日本において举行された）とある。

当日は「天空湛藍、陽光燦爛」（大空は紺碧、太陽の光は燦爛）の中、三重県津市の県庁前では、百名以上の日本の児童が旗を振り、軍楽隊（中国語のまま）が楽曲を奏で、500名以上の県庁職員が列を作って、河南省の何竹康省長一行を出迎えた。そして、午後1時30分、三重県の田川亮三知事と何省長がそれぞれ協議書に調印し、友好関係が正式に結ばれた。

この記事のすぐ下には、資料として三重県は農林水産業が盛んである一方、石油産業、機械産業なども発展しているといった三重県についての簡単な紹介記事も載せられている。三重県と河南省の往来は、1985年初めに始まり、以後、1985年の10月と1986年4月には三重県の代表団が河南省を訪れ、1986年2月には河南省の代表団が三重県を訪問して関係が醸成されていっ



たようである。

時間を遡るのは、とりあえずこのくらいにして、最近の両者の関係が知りたくなった。そこで、今度は河南省政府の公式ホームページを見ると、つい最近の2021年11月5日付けで、前日に「慶祝中国河南省与日本三重県建立友好省県関係35周年視頻会議挙行」（中国の河南省と日本の三重県の友好省県関係建立35周年を祝うオンライン会議を挙行）というニュースが出ていた。出席者は河南省側が副省長の周霽氏他、三重県側は副知事の広田恵子氏他である。

周副省長は、あいさつの中で、35年来、河南省と三重県が豊富で多彩な友好的交流を展開しており、農業、環境保護、教育、文化、経済貿易等の領域で実り多い成果を挙げてきたと述べている。併せて、新型コロナウイルスの世界的流行に際して、両者が「守望相助、相互支援」（共同で注意し、互いに助け合う）を実行しているとし、さらに、本年夏、河南省を襲った豪雨水害（2021年10月号の「雑感」を参照されたい）に対して、三重県が真っ先にお見舞いと励ましを表明してくれたことに感謝の意を込めて言及していた。

三重県庁のホームページで確認すると、豪雨災害に対する河南省長あてのお見舞いの知事親書が8月3日付で発出されていた。また、新型コロナ禍については、2020年2月12日にお見舞いの知事親書が三重県から発出されている。一方、同年4月9日には河南省から三重県に対して医療用サージカルマスク5万枚が寄附されている。周副省長のあいさつは、こうした事情を指している。

さて、ここまでは、河南省と三重県の間で締結された友好関係について見てきたが、河南省をめぐる省あるいは県以下の行政レベルでの公式友好関係を整理すると表のようになった。もっとも、整理したと言っても、一般財団法人・自治体国際化協会（クレア）によるウェブサイトが日本の自治体と海外の都市との間の友好提携関係について網羅的な情報を提供しているので、それから抜粋したにすぎない。

クレアのウェブサイトを見ると、日本の自治体（都道府県および市区町村）が姉妹友好提携関係を結んでいる海外地域の総数は1,783地域である。その中で、都道府県が結んでいるのは170地域、市区町村が結んでいるのは1,613地域である。国別の総数では、アメリカ合

河南省と日本の友好提携都市リスト(2021/07/15現在)

日本側		河南省側	提携年月
三重県		河南省	1986/11/19
岩手県	北上市	三門峡市	1985/05/25
宮城県	大崎市	鄭州市金水区	1994/07/19
山形県	南陽市	南陽市	1988/10/06
福島県	須賀川市	洛陽市	1993/08/01
埼玉県	さいたま市	鄭州市	1981/10/12
	草加市	安陽市	1998/11/01
	戸田市	開封市	1984/08/21
	新座市	濟源市	2002/05/16
長野県	下諏訪町	開封市	2002/04/22
三重県	津市	鄭州市惠済区	1991/05/14
大阪府	柏原市	新郷市	1990/09/26
奈良県	橿原市	洛陽市	2006/02/11
岡山県	岡山市	洛陽市	1981/04/06
	新見市	信陽市獅河区	1992/04/16
熊本県	小国町	登封市	1998/03/03

衆国が一番多く458地域（うち、都道府県が結んでいるのは26地域、市区町村は432地域）、2番目は中国で合計377地域（46地域と331地域）である。以下、総数では韓国（165地域）、オーストラリア（107地域）、カナダ（72地域）と続いている。相手側の地域の行政レベルはさまざまであると思われるが、たとえば、中国については日本側が都道府県レベルであれば、対応する中国側は省（直轄市・自治区を含む）レベルである。

表の第1行目が、ここまで見てきた三重県と河南省の関係であるが、その他、日本の15の市区町村が河南省に属する地域と友好関係を結んでいる。行政レベルを見ると、日本側は15地域の内、13地域が市、残りの2地域が町である。一方、相手の河南省側は15地域の内、11地域が市（地級市）、3地域が市の下の区、残りの1地域は県級市となっている。ただし、たとえば、洛陽市は日本の3つの市と友好関係にあるなど、河南省側は重複している。なお、表における唯一の県級市、登封市（少林寺があることで有名）は日本の熊本県小国町と友好関係にある。最下行に示したが、登封市は鄭州市に属する県級市であるから「鄭州市登封市」と記するのが正しいであろう。

今回は紙幅が尽きてしまったが、新型コロナ（今はおーオミクロン株）が去って、また、河南旅行が可能になるまで、日本にある友好都市をインターネットに乗っけてもう少し旅することにしたい。（続く）



## 中国の面白い神話物語・伝奇物語(11)－中国のお正月

顧傑

新年おめでとうございます。

2021年はコロナの影響で皆様に会えませんでした。今年こそは、はやく疫病が収束し、皆様とお会いできることを期待しております。

最近、日本の友達と元旦の話をしてみたら、日本と中国で「元旦」の意味が違うということに、今更ながらに気づきました。そのため、今年最初の投稿は、タイトルの唐伝奇から少し離れて、中国の暦の歴史を紹介し、私の子供時代の正月の様子をお話します。

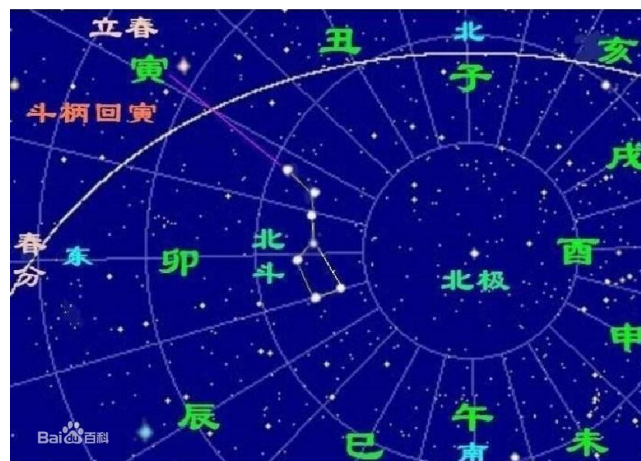
まず、私の理解では、日本の元旦と元日は、どちらも正月の1月1日を表す言葉だと思っていましたが、実際は、元日は1月1日「丸一日」を指すのに対して、元旦は1月1日の「朝」のみを表す言葉だそうです。中国では、1月1日一日中を「元旦」とも「元日」とも言います。

調べてみましたら、日本では明治から大正・昭和前期まで皇室行事である四方拝にちなみ、四方節と呼ばれる祝祭日でした。そして昭和23年の1948年からは国民の祝日になったとのことです。つまり日本が1月1日を祝うようになったのは、四方節の頃、19世紀の70年代からなのです。

ところで中国の場合はどうでしょう。日本でも皆さんご存じ通り中国の新年は、元日は違い、現代では「旧暦(農暦)」を基準にしていますが、昔の中国はそうではありませんでした。

上古時代(いわゆる夏・商・周朝以前の時代)は、「星辰歴(干支歴)」といい、北斗七星(七曜の星)の変化に準じていました(右上の画像をご参照ください)。

古代の人々は、認知できる天、地または動物などを組み合わせて、十の天干と十二の地支を作りました。日本でも纏めて「十干十二支」と言われていますから御存知ですね。十の天干は「甲・乙・丙・



星辰図(百度百科より)

丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」があります。そして十二の地支は日本の十二支と同じく「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」になります。この天干と地支を組み合わせると、60年を周期とした計算方法ができあがりました。いわゆる還暦ですね。また1年に十二地支を対応させて12カ月も同時に確定させました。

古書には、「…正月指寅，十二月指丑，一岁而匝，终而复始。」というのがあります。これは、「北斗の柄が寅の方向を指している時を正月とし(次は卯月、辰月…)、丑の方向を十二月として、一年間循環する」という意味になります。

ちなみにこの干支歴は、今でも皆様のカレンダーにも記載があるかもしれません。2022年(令和4年)の1月1日は、「甲寅の日」で、2日は「乙卯の日」になります。また中国ドラマでは「午の時(刻)に斬首する!」と言ったセリフを聞くこともあるでしょう。この「午の時」も干支歴による計算になりますね。

さて、いよいよ中国に夏朝が成立しました。

夏・商・周朝になってからはお月様の変化に準ずる「陰暦」になりましたが、戦乱や地方領主が乱立していた戦国時代は、地方によって全く違う暦法が存在していました。

そして秦朝が六国を統一した後、地方によってバラバラだった中国の文化をまとめようとした始皇帝が、年始を大幅に変えてしまいました。この時に年始は、10月1日になったのです。

漢朝になっても最初は、秦の暦法を使っていたため、秦漢の歴史書「史記」や「漢歴」などもまた、10月が年始になっており、この事実を知らないで読むと、混乱してしまうこともあります。

そのあと王朝が交代する度に暦法も多少変わっていて、女帝武則天が「周朝」を創立した時は一年に2回も年始があったといいます（前漢の年始は2月だったのに、周が新年を12月としたため、一年に2回の新年が来ました）。

辛亥革命後、中国にも陽暦（公歴）が入って来て、陰暦（農歴）1月1日はちょうど「立春」の前後が多いので、「春節」と名付けられました。

1912年1月1日、中華民国が成立し、孫文は演説の最後を、「中華民国元旦」で締めました。

1949年9月27日の中華人民政治協商会議が再び元旦を確立し、祝日にしました。

つまり、1月1日を国として祝う歴史は、日本の方が先、ということなのです。

おそらくですが、日本が中国より先に西の文化に馴染み、太陰太陽暦からグレゴリオ暦が変わったためなのではないでしょうか。辛亥革命もまた、中国人が西の文化を取り入れようとした結果、暦法もその一環になったのではないかと思います。そんな訳で、当時、中国より先に先進的思想を学んだ日本が、中国より先に正月を祝うようになったのだと思います。

今になって中国はきちんと元旦と春節（新年）を分けていると思いますが、実は、私の成長期における元旦は、春節との区別がよくわかりませんでした。

当時、裕福ではなかった我が家は、元旦と新年だけが思う存分お肉を食べられる機会でした。子供にとっては、どちらもご馳走が食べられる日で、

ご馳走ばかりが印象に残って、その違いまでは深く考えませんでした。

強いていえば、爆竹の音がうるさく鳴ったら元旦で、お年玉をもらえるのは新年だと思っていた気がします（笑）。

また、当時の会社は国営が多いので、年末に父親が自転車の後ろに載せて帰って来る品物の多寡が、その会社の勢いを示していました（当時の会社は日本のボーナスの感覚で、従業員に年越しのための食料や生活用品を支給していました）。

最悪でも米は配っていましたが、お米だけの人は、そそくさと自転車を飛ばして帰宅しますが、自転車の前かごに魚、後ろの荷台に豚肉、載せきれない羊肉やリンゴは子供を呼び寄せて持たせて帰る人は、新年を迎える喜びを振りまきながら、知らない人と出会っても話かけようとして、家までたっぴりと時間をかけて帰るのです。普段は10分で行ける道に1時間以上かけてもまだ帰着かないこともありました。

こんなことは、今では思い出の中に残るだけの話になってしまいました。現在はインターネットで誰でも何でも買い物ができる世界になりましたが、なぜか当時のような賑やかな年末年始が無性に恋しくなっています。

皆様の子供の頃は、どんなお正月だったのでしょうか？どんなお気持ちで現在のお正月を迎えられていますか？伺いたいものです。

ではまた、次の機会にお会いしましょう。





## 「秦皇島」をご存知ですか？……(11)

文と写真 吉光 清

「秦皇島の人気観光地ランキング 2021」の第6位以下を見てみる。第6位は「天下第一关」（評価点 4.5/5）、第7位は前々号で触れた「碧螺塔海上酒吧公園」（評価点 4.3/5）、第8位は「游島」（評価点 4.5/5）、第9位は「北戴河」（評価点 4.4/5）、第10位は「祖山景区」（評価点 4.5/5）と続いている。

第8位と第10位以外は秦皇島市内の4つの区に属し、これまで案内して来た地域に含まれる。北京からのアクセスが良く、旅行社が1日から数日のバスツアーを設定するには適しているの、それらを利用する観光客の数が、レビュー数に反映しているようである。

それらに対して、「游島」は未だ案内していない「抚宁区」を南に越えた「昌黎県」にある「漁島海洋温泉度假区」を指し、ディズニー・シーの様に、いろいろな遊戯施設が合わさった温泉リゾートのようである。また、「祖山景区」は「青龙满族自治县」北部に所在する山岳観光地のようで、レビュー数は476件と少数に留まっている。いずれも秦皇島市中心部からは距離があり、短時日での往復や滞在は難しいので、他の都市からのツアーも多くないに違いない。

ひとつの旅行社による人気ランキングに目くじらを立てる訳ではないが、「新澳海底世界」はベストテン中では評価点が最も低く、レビュー数も第8位と多くないのに、なぜ、ランキングが第5位になっているのだろうか？ 疑問を抱かざるを得ない。

### ■路線バスで「戴河」のほとりへ

「北戴河」バスターミナルからの5路の路線バスは「联峰山公園」へは「老虎子公園」を経由しないので、22路のバスより早く着くことができる。例によって、同じ「联峰山公園」という名称のバス停が、一方は「联峰路」上に、他方は「剑秋路」上に置かれている。

5路のバスと22路のバスは、そのまま先に進んで「驼峰路」に入ると、「联峰山」の外周に沿って、時計と逆回りに北側から西側に回り込み、南下するが、その間の5つのバス停は両路線で共通となる。終着地は共に「北戴河」鉄道駅であるが、戴河に架かる「军区桥」のたもとで進行方向が分かれる。22路のバス

は此处で「戴河大街」に入り、橋を渡って南下を続けるのに対し、5路のバスは右折して「海北路」に入り、戴河の流れに沿って（上流に向かって）西に進む。「军区桥」のすぐ上流に「南戴河大桥」が架かっているが、そちらを渡っても「戴河大街」に合流することが出来る。

渤海に注ぐまで約1キロと、河口に近い地点なので、流れはゆったりと穏やかである。橋の上には釣り糸を垂らしている人々がいた。

### ■北戴河区内を流れる河川

「新河」と「戴河」という2本の河川が北戴河区内を流れている。「新河」は海港区と北戴河区との奥地に源を発して両区の境界を縫って流れ、「野生動物園」の南に広がる「北戴河森林湿地」の中を通過して「鸽子窝公園」の北で渤海に注いでいる。人々があまり居住していない地域を流れているため、その存在にあまり関心を持たれなかったと考えられる。一方、「戴河」は流域の人々の生活と古くから関わりを持ってきたようである。「百度」に拠れば、源流は抚宁区の「西戴河」で、その支流は「渝河」と「沙河」である。戴河の最も古い呼称は「渝水」であったが、「辽」の時代（907～1125）から「明」、「清」の時代までは「渝河」、清の光緒年間からは「戴家河」、国民党の時代に現在の名称になったということである。北戴河区と抚宁区の境界線として、丘陵地帯をおおよそ南東方向に下って来た流れが、「北戴河」鉄道駅の北の辺りで南に向かうようになる（下の写真）。



「北戴河」駅近くを南へ流れる戴河（2016年10月撮影）

その後は大きく西に回り込み、反時計回りに半円を描くようにして渤海に注いでいる。戴河の全長は35キロ、流域面積は290平方キロ、最大川幅は200メートルとされている。

### ■青い郵便ポストと黄金色の銀杏並木

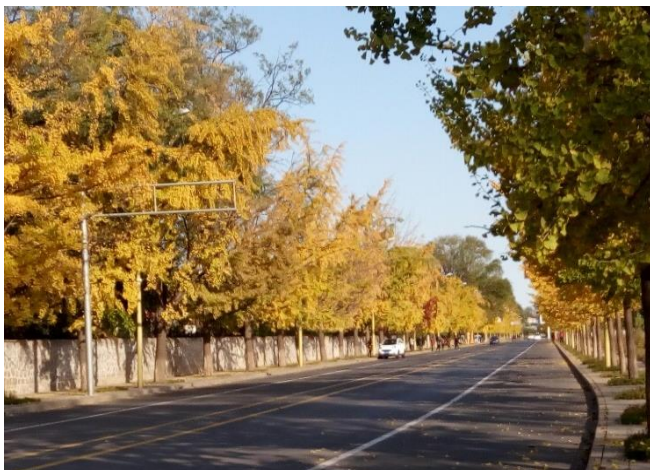
海北路にある軍病院前の銀杏並木が、紅葉時期には一見に値すると教えられたので10月下旬に出掛けた。海北路に入ると、左に戴河が見え隠れし、右側には軍関連の施設が続いている感じだった。「南戴河大橋」への道路が左に分かれる交差点を過ぎると、それらしい雰囲気になったのでバスを降りた。バス停には「二八一医院」とあり、軍病院の前であった。正式な名称は「秦皇島北京军区二八一医院」である。

バス停の場所は病院の正門前ではなく、少し通り過ぎた通用門の傍であった。通用門には「腎臓中心」や「〇〇実習基地」などの表示があり、門を通過して出入りする人も多く見られ、地域の医療機関の拠点施設になっているようであった。



歩道の脇にある郵便ポストらしいものに気付いた。近づいて見ると、日本でも市街地では殆どお目に掛からなくなった、縦長、円筒形のポストだった。青緑色だったが、雰囲気が似ていて懐かしかった。後ろの建物は郵便局だった（左の写真）。

銀杏並木は午後の陽射しに黄金色に輝き、遠くまで続いていた。思わず感嘆の言葉を口にしても相槌を打つ相手は傍に居なかった。車が時々、落葉を舞わせて通り過ぎて行ったが、一時停車し記念写真を撮っている姿も見られた。広い道路だったが、道路脇や歩道には結構、落葉が積もっていた（下の写真）。



車が時々通るだけの黄金色の銀杏並木（2016年10月撮影）

### ■夕陽の中に静かに佇む寺院

銀杏並木の下を一つ先のバス停まで歩くことにした。海北路が急に右にカーブして北に方向を変えるあたりまで並木は続いたが、そのあたりでは、もう戴河の岸からかなり離れている感じがした。

戴河と道路に挟まれた小高い丘の上に、寺院らしい、小豆色の塀と塔が夕陽に輝いて見えたので、立ち寄ってみることにした。そこまでの歩きの間に数人を見掛けたが、寺院内には人影は見えなかった。

山門に至る10段ほどの階段の手前と、階段を登り切った山門の両側には、それぞれ一対の石造りの獅子が置かれていた。

山門の両側の壁には、大きく、色彩豊かに、“佛”の文字が描かれていた。山門入り口の上の扁額には「慧集寺」とあった。山門を潜った左右には屋根付きのスペースが付設されていて、それぞれに一体、剣を持った、白い等身大の神像が置かれていた。

境内に入ると、二重屋根の建物が左右対称に配置され、正面奥の階段の上に本堂が置かれた伽藍配置になっていた。本堂に向かう階段の手前には、日本では見掛けないノッポの仏具（焼香用？）が置かれていた（下の写真）。

階段上の本堂の扉は開いていて、大きな仏像を自由に拝観出来た。中国の寺院は通常、墓所ではないので、陰鬱な感じは受けず、深い静けさの中で、清々しい気持ちになった。南の方角を見下ろすと、戴河が左方向（東）に大きく蛇行しているのが見え、満々たる流れが勢いを増し、水面が盛り上がり、対岸の建物を呑み込むような錯覚に囚われた。（続く）

参考 URL: <https://jp.trip.com/travel-guide/>



夕陽に映える「慧集寺」の本堂（2016年10月撮影）



「わんりい 2021 年 4 月号」でご紹介した「健康コード取得騒動記」続編です。新型コロナウイルス(新型コロナウイルス)の感染騒ぎが四姑娘山に及んで来ましたので、それに纏わるトピックスをご紹介します。本文に出て来る地域名の階層関係を予め説明します。

#### ■四川省—成都市

- 阿壩(アバ)蔵族羌族自治州—四姑娘山鎮
- 甘孜(ガンツー)蔵族自治州—丹巴県
- ・成都市茶店子バスターミナル(公共車站)から阿壩州文川県映秀鎮と巴郎山峠200km余りを經由して四姑娘山鎮へ繋る
- ・小金県城市は四姑娘の西60km
- ・丹巴県東側が小金県に隣接、南側が康定県を經由して成都市へ繋る

#### 1. 健康コード等による管理

当地の新型コロナウイルス対策の一つ「健康コード(当地では健康碼)」は個人が持つ個人と不可分なスマートフォン(智能手机<sup>注1</sup>)に登録され、本人の体温等の健康状態・人の繋がり(家族等)・接種と検査や滞在場所の記録等が各種のコンピューターシステム(電腦系統)と連動して管理されています。

健康碼を取得した後は発熱の有無等を適時自己申告すると共に、銀行や大きな超市や公共車站等の人が多く集まる場所へ入る時に体温測定され健康碼を提示します(夏場は新型コロナウイルスが沈静化して体温測定だけでした)。

同時に、入口に掲示されている、その場所を表す二次元バーコード(二維碼)をスキャンして健康碼 APP に滞在場所を記録します。

このように自分で滞在場所を記録する他に、行動確認 APP と呼ばれる工程コード(工程碼)が有り、携

帯電話基地局と衛星測位システムを利用して位置確認しています。そのため事が起きると健康碼等をトレースして感染者が立ち寄った場所や濃厚接触者を調べます(但し外国人については一部分実現されていません)。

実際、私が成都から四姑娘山へ移動して電話すると、その日の内に四姑娘山が在る小金県から観光案内や防災注意等のショートメッセージ(短信)が、普段使っている従来の携帯電話器と健康碼を登録している智能手机に届きます。

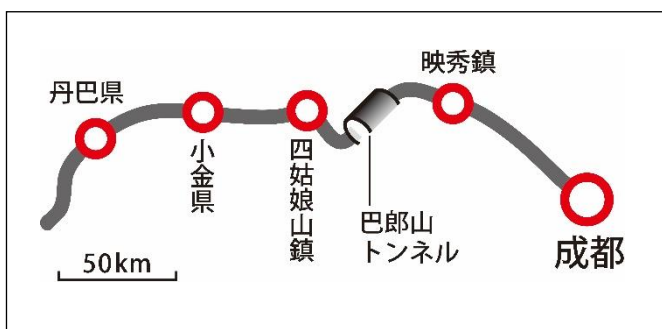
#### 2. ワクチン接種と記録

当地では3歳以上全員が新型コロナウイルスのワクチンを無料で接種します。日本で使われている mRNA ワクチンと違って当地ではウィルス不活化ワクチンを使いますので効果について心配しましたが、公衆衛生の観点と人が多く集まる場所で接種記録をチェックする動きが見えていた事から、私も「郷に入れば郷に従う」で接種しました<sup>注2</sup>。

ワクチンは家内の地元の甘孜州丹巴県城市で、保育園に急ごしらえした会場で接種しました。当地は老人が後回しで、8月に第1回目を接種した時は若い人の接種が殆ど終わっていて、老人で混雑していました。その後9月に第2回目を接種した時は、老人も殆ど接種が終わっていて人影疎らでした。実際、この時は丹巴県境の検問所で2回の接種を終えた記録を掲示するよう要求され、私は「2回目の接種を受けるために丹巴へ行く」と言って通して貰いました。なお第3回目は2022年3月に予定されています。

ワクチンの副作用は殆ど無いですが、接種後に会場で30分間留まり副作用が出ない事を確認します。ワクチン接種情報は接種直後に健康碼 APP で表示されました(次ページ写真参照)。費用は一般外国人の場合100~200元掛かりますが、私は地元住民の配偶者なので無料でした。2021年末時点で丹巴では3歳以上全員接種済みですが、全国的には地域事情が有って83%接種だそうです。

7月初旬に四姑娘山へ行った時は、成都の茶店子公共車站で健康碼を掲示し乗車地点と運転手を識別す



预防接种凭证  
(Vaccination Certificate)

受种者编码 Code		身份证号 ID	
受种者姓名 Name	OKAWA KENZO	出生日期 Date of birth	
性别 Gender	男	联系电话 Mobile phone	
家庭住址 Current Address			

序号 NO	疫苗名称 Vaccine	剂次 Dose	接种日期 Date	疫苗批号 Lot#	生产企业 Manufacturer	接种单位 Clinic
1	新型冠状病毒灭活疫苗 (Vero细胞)	第一剂	2021年08月17日	202107c0350	成都生物	丹巴县妇幼保健计划生育服务中心
2	新型冠状病毒灭活疫苗 (Vero细胞)	第二剂	2021年09月10日	202108142e	北京科兴中维	丹巴县妇幼保健计划生育服务中心

る二維碼を読み込み、四姑娘山に着いた時に健康碼を掲示しただけでした。しかし10月中旬には、茶店子公共車站で健康碼に加えて2回のワクチン接種記録を掲示し運転手との間で更に幾つも情報を読み込んだりチェックしてやっと乗車できました。また阿壩州境の映秀でも、外国人の私だけ健康碼とワクチン接種記録がチェックされました。この時はバスの外から「外国人は乗っていないな」と声が掛かり<sup>注3)</sup>、バス運転手が「一人居る」と答えると、トラブルに備えるかのように警察官2人に付き添われた女医さんが緊張した目付きでバスに乗り込んで来て、私の智能手机・パスポート・永住許可証を綿密にチェックしましたが、顔見知りのバス運転手が「この人は四姑娘山に家が有って管理局の仕事をしていて・・・」と紹介してくれたためか、クドクド聞かれずに終わりました(バス運転手に感謝！)。

四姑娘山に入る時も検問所が有りますがバス乗客は私を含めフリーパスでした。しかし私は、途中でバスに乗り込んで来て四姑娘山へ着く前に下りた乗客が居るので(ワクチン接種が終わっているからでしょうが)、少し不安でした。

### 3. 感染騒ぎと PCR 検査

#### ①最初の感染騒ぎ

当地では10月初めの国慶節から国内旅行客が急増し、四姑娘山も2年ぶりに賑わいました。しかしその後、新型コロナウイルスデルタ株の感染騒ぎが次々に起こりました。10月末になって、成都市で四川省外へ旅行して戻った3人が感染確認され、自主隔離が徹底さ

れなかったようで、其の後数10人に感染者が増えました<sup>注4)</sup>。その時、感染者の一人が四姑娘山の町で昼食を食べた事が判り、11月初旬から四姑娘山は3週間封鎖されました。観光地なので早く解除したい所なのに3週間も封鎖する(当地では通常2週間)慎重さに感心しました。

四姑娘山の私の家は町から1km位離れていますので私の健康碼は安全な緑色のままでした(800m以内に居た人は黄色になったそうです)。見廻りに来た当局防疫班から「外出を控える」等の注意を受けましたので、町から離れた所に住んでいる白タク運転手に食糧を届けて貰い3週間を凌ぎました。この白タク運転手の話に拠りますと、他にも私と同じように食糧を届けて貰っている家が有るようで、感染騒ぎが大きくなった2020年春節頃に成都で急増した食料雑貨の宅配を思い出しました。(続く)

#### ■注釈

- 1) 当地は進取に富む気質が強いようで、従来の携帯電話器から(パソコンを飛び越えて)一気に智能手机へ移行しました。従来の携帯電話器の延長線上で WeChat・買物や公共料金のキャッシュレス支払い・口座振込・病院予約・TV電話等が使われ始めて智能手机が広まり、更に新型コロナウイルス禍に及んで健康碼・ワクチン接種記録・PCR検査証明等が必須になり完全に智能手机に置き換わりました。そして従来の携帯電話器は一部で補助的に使われるだけになっています。
- 2) 公衆衛生と自由の制約に対する考え方は地域と時代によって変わりますので一概に言えませんが、主に欧米でワクチン接種や接種証明掲示が拒否される状況には(mRNAワクチンの安全性に不安が有るとは言え)、公衆衛生への意識不足を感じます。当地では2000年以降、経済発展に連れて若い指導層やハイテクビジネス関係者を中心に意識が変わって来ていて、2020年初めからの新型コロナウイルスへの対応ぶりにも「平時では無い」並々ならぬ意識を感じます。当地で全員接種できるのも其の線上に有るからでしょう。
- 3) 外国人を警戒する状況は当地も日本も同じです。当地では外国人のチェックが綿密なだけでなく、四姑娘山では一般外国人が宿泊できません。日本では私が定宿にしている東京のビジネスホテルや田舎の親戚の家から「来るな」と言われていて、新型コロナ型ウイルスが治まっても直ぐには帰国し難いようです。
- 4) 成都の茶店子公共車站も、感染者が立ち寄っていたため2週間閉鎖され、この間、四姑娘山方面への長距離バスが運休しました。またこの時から四姑娘山が在る阿壩州へ入る時に48時間以内のPCR検査陰性証明が必要になりました。成都での感染騒ぎは3週間後の11月中旬に治まりました。



## 70年代生まれの私が読んだ小説（下）

ちょう だい  
趙 迪

もう一人の作家は、今でも中国でかなりな影響力を持っている人です。その人は、香港の侠客小説の作品で有名な金庸<sup>1)</sup>です。彼の作品、「射雕英雄伝」「天龍八部」「倚天屠龍記」等ほどの小説も中国人男性が憧れを持つものです。琼瑶の小説と同じで、その作品の多くは映画になり、テレビドラマになっています。中国大陸では金庸を知らない人はいません。

金庸が書いた小説の中には、歴史的意義および歴史的価値を探求しないものはありません。彼は小説の中の武術各派の間、人と人之間、宗教と世俗の間、正教と邪教の間、国家や民族の間及び時代と時代の間、の恩讐を通して、最終的にそれぞれの個人、門派、国家、民族、教会、時代の各種の悲劇を作り出しました。本質から言えば、金庸の狙いは正に小説の中で強烈な悲劇の情念を表現することを通して、人間の負の価値を分析し、プラスの価値の効果を広げるといふ効果をねらっています。

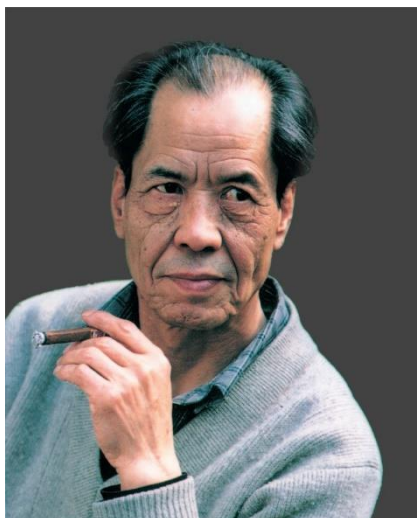
その後私が大学に入ってから、他のジャンルの作品を読み始めました。その中で最も好きな作品の中には、王朔<sup>2)</sup>の作品があり、彼はヤクザ文学の創始者だという人もいます。彼は社会の底辺の人達の思想行動と人に対する対応を語り、そして描写したのは、底辺の人達の普通で典型的な生活状況や感情のいざこざです。代表作はすべて読みましたが、主要なものは次のような作品です。「過把癮就死」「頑主」「玩的就是心跳」「橡皮人」「隨筆集」「我是你爸爸」「千万別把我当人」「看上去很美」等等。沢山の北京の人と同じように王朔の文体の最大の特徴は、【調侃】（からかうような口調で社会風潮を風刺する、という意味）と言えます。「調侃」というものは、そもそも硬くもなく柔らかくもない言語の形式のひとつです。こ



王朔(百度百科より)

の種の言語形式を手段とするよりは、むしろ王朔は武器としています。彼は普通の人としては小さなころは尊重されているのではなく、絶えずいじめに遭っていました。街角のヤクザ、厳しい先生、頑固な父母は皆、彼に対する侵害者でした。彼は反抗できませんでした。しかし彼はある種の自分を保護する措置を取らねばなりません。そこで王朔は「調侃」という方法を選んだのです。相手の自分に対する侵害の侮辱を解消できるだけでなく、自己の尊厳を守ることが出来たのです。王朔は人々の目には、文化と言う洋服を着た「ヤクザ」と見えていたのです。

次に取り上げるのは、どちらかというと重厚で、読



陳忠實(百度百科より)



莫言(ウィキペディアより)

み応えのある長編作品です。例えば陳忠実<sup>3)</sup>の家庭に題材をとった長編「白鹿原」です。これは歴史的な事件における、個人、家族、村落の経歴を民族の運命として探求するものです。そのためこの小説は、「ある民族の秘史」と称せられました。賈平凹<sup>4)</sup>の「浮躁」は、中国の改革開放の初期における中国の農村に見られた、人々の考えが知らず知らずのうちに感化されて変化していく様子を描写しています。中国西北部のある大都市に住む、一群の知識分子の生活物語を書くことによって、物質主義が人々の精神世界を蝕み、人々の心に影響を与えると言うものです。

莫言<sup>5)</sup>の代表作である「豊乳肥臀」「紅高粱」「生死疲労」の諸作品の中で、「紅高粱」は張芸謀によって同名の映画にもなりました。莫言は、2012年にノーベル文学賞を取得し、また中国籍作家で初めてのノーベル文学賞でもありました。また余華には、「許三觀売血記」「活着」「兄弟」などの作品があります。中でも「活着」は、内戦、三反五反運動<sup>6)</sup>、大躍進政策、文化大革命などの大社会変革による歴史の大きなうねりの中で論述しています。主人公の徐富貴の人生と家庭は絶えず苦難に遭遇しますが、依然として強固に生き抜いていく物語です。「活着」は海外の多くの言語に翻訳されています。勿論日本語版もあります。同じ時期に二月河<sup>7)</sup>が書いた歴史を題材にした帝王小説とでも言う次の代表作があります。「雍正皇帝」「康熙大帝」「乾隆皇帝」。

以上紹介した作家や作品は、私自身の成長過程でめぐり会った文学作品です。それらはまた、70年代以降の中国文学の変遷の歴史と捉えることも出来るでしょう。この後は、すでに改革開放下の自由の中で、さらに多くの新進気鋭の作家が誕生し、80年代90年代の人たちは、その中から自由に選んで読書を楽しめるようになりました。しかし私個人としては、我々世代は50年代、60年代の人々と比べて、非常に幸運な世代だと思います。なぜなら、我々は後世へ続く発展の端緒にいて、より多くの体験ができたわけですから。(完)



二月河(百度百科より)

#### ■注

- 1) 金庸(きんよう [Jīn Yōng]): (1942~2016) 香港の小説家。香港の新聞『明報』とシンガポールの『新明日報』の創刊者。武俠小説を代表する作家で、その作品は中国のみならず、世界の中国語圏(中華圏)で絶大な人気を誇る。
- 2) 王朔(おうさく [Wáng Shuò]): (1958~) 作家、脚本家。南京生まれ、すぐ北京に移る。満州族、文革後の若者たちを北京方言で描いた、「北京無頼(不想上床)」がベストセラーになり、数々の著書が映画化、ドラマ化され「王朔現象」と呼ばれるブームを起こした。
- 3) 陳忠実(ちんちゅうじつ [Chén Zhōngshí]): (1942~2016) は、中国小説家。代表作に小説『白鹿原』。
- 4) 賈平凹(かへいおう [Jiǎ Píngwā]): (1952~) 中国の小説家。代表作に小説『秦腔』『古炉』『廢都』。
- 5) 莫言(ばくげん [Mò Yán]): (1955~) 中国の作家。中国現代文学の第一人者。ロマン・ロラン、ガルシア・マルケス、ミラン・クンデラなどの影響を受け、作品には農村風景や自然の描写に登場人物の心象風影を投影した幻想的なものが多い、1999年に初来日。フランス芸術文芸勲章、国際ノーベル賞を受賞。2006年に福岡アジア文化賞を受賞。2012年10月11日、「幻覺的なりアリズムによって民話、歴史、現代を融合させた」としてノーベル文学賞を受賞。中国籍の作家としては初。
- 6) 三反五反運動: 1951年12月から1952年6月にかけて中華人民共和国で実施された政治キャンペーン運動。「三反」とは、官僚主義・汚職・浪費に反対する運動。「五反」とは、1952年に提唱された贈賄・脱税・国家資材の横領・原料のごまかし・経済情報の漏洩の五に反対する運動。
- 7) 二月河[er yue he]: (1945~2018) は、中国の作家。本名は凌解放。文中に記した作品はいずれも大反響を呼んで、テレビドラマ化された。

# 中国・陰暦の行事一日中の違い

日本では新年を迎えましたが、お隣の中国の新年である春節は、今年は2月1日です。「今年は」と書いたのは、ご存知のように太陽暦では毎年春節の日が違っているためで（2021年は2月12日、2020年は1月25日でした）、陰暦を使用している国では春節が一年の計の始まりですね。日本に住んでいる中国の方は、毎年2回お正月気分が味わえるわけですが如何でしょうか？わんりい2021年は、新型コロナウイルスのため恒例の新年会が見送りとなりましたが、この新年会は以前から春節の前後の日曜日に開催してきました。料理も毎年、涮羊肉（羊肉のしゃぶしゃぶ料理・シュアンヤンロウ）を楽しんでいます。

さて中国では陰暦に基づく多くの行事がありますね。しかし陰暦のため、基本的に太陽暦で動く日本人にはピンと来ません。例えば日本では5月5日は端午の節句ですが、中国のそれは、昨年2021年は6月14日（月）でした。日本人にはこの日が来ても特に意識することはありません。中国は悠久の歴史を持ち、国土も北から南まで日本の26倍もの広さを持ちます。更に56もの民族が生活しているわけですから、行事の数をあげれば星の数ほどあるでしょう。そこでここではある程度全国的な行事で、日本ではあま

り知られていない（と思われる）行事を四季折々に拾ってみることにしました。今回は陰暦の1月から3月の間に行われる行事を紹介します。次は4月から6月までの行事を4月号で紹介する予定です。

～・～・～・～・～・～・～

## ■1月——

### ★春節(旧暦1月1日)

春節は4000年の歴史があると言われ、当時は春節と言わず、固定の日も無かった。紀元前1000年頃、人々は春節を豊作の意味であった「年」と言った。春節は「過年」とも言う。民間の習慣では旧暦の12月23日の祭灶（竈）という竈の神様を祀る日から旧暦の元宵節の1月15日までを言う。12月30日の除夕（大晦日）と元旦を最も盛大に祝う。家々の入口にはおめでたい言葉を書いた「春联」を貼ってお祝いする。日本でも横浜や神戸の中華街では多くの人出で大変賑わう。

### ★人日(旧暦1月7日)

中国では奇数は「吉」とされるが、奇数が重なると逆に厄日とみなされ、食べ物や行事で厄払いをする風習がある。奇数が重なると言っても1月1日は別格、替わりに1月7日を人日として、七種の野の草を入れた羹（汁気の多い煮物）を食べる。春節を迎え、野に出て一刻も早く春を探したいという気持ちの表れだろうか。7種の野草は諸説あるが、この習慣が日本に入って七草粥の風習となった。因みに、日本の七草は、セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・ナズナ・スズシロを言う。

1月7日を人日というのは、中国の創生女神・<sup>じょか</sup>女媧が1月1日には鶏を作り、2日に犬、3日に羊、4日に豚、5日に牛、6日に馬を作り、1月7日に人間を作ったという神話による。

### ★元宵節(旧暦1月15日)

正月は元月とも言われ、元月の最初の満月の夜（宵）であることからこのように命名された。日本では小正月と言われ、祝うところもある。由来は、漢朝の実



Jan 2022

七	一	二	三	四	五	六
2 三十	3 臘月	4 初二 小寒	5 初三 小寒	6 初四	7 初五	1 元旦
9 初七	10 臘八節	11 初九	12 初十	13 十一	14 十二	8 初六
16 十四	17 十五	18 十六	19 十七	20 大寒	21 十九	15 十三
23 廿一	24 廿二	25 小年	26 廿四	27 廿五	28 廿六	22 二十
30 廿八	31 除夕夜					29 廿七



権を掌握していた中国歴史上〈三大悪女〉として名高い呂后（高祖・劉邦の皇后）が崩御すると、それまで権力を欲しいままにしていた外戚・呂氏を排除するため各所で乱が発生した。軍司・陳平らの奮闘により劉邦の子の劉恒が皇帝（文帝）となった。乱の平定が正月15日であったことから以後歴代皇帝は民衆と共に祝賀することとなった。この日を第5代皇帝文帝（在位 BC 180年～BC157年）が元宵節と名付けたと言われる。この日、民衆は提灯（中国語では燈籠）を作り、邪気を払い吉祥を願った。今でもこの日は色とりどりの提灯を飾ったりして賑やかである。以前たまたま南京に旅した時の綺麗な光景が忘れられない。端午節には粽を食べる習慣があるが、元宵節には湯圓というもち米を原料とした団子を食べる習慣があり、筆者も湯圓が大好きである。

～・～・～・～・～・～

■ 2月——

★龍抬頭(旧暦 2月 2日)

これは、「龍が頭をもたげる」と言う意味であるが、華北地方や東北地方において旧暦の2月2日に行われる行事。この日はトウモロコシの実を炒って雨の恵みを願うようになった。中国の旧正月は前年の12月8日（腊八節）から翌年の2月2日までの期間を指すこともあり、この日から農作業を行う習慣があった。農作業を奨励する意味があり、龍王も土から出て頭をあげて昇天するという想像から龍抬頭と呼んだ。またこの旧正月期間内に髪の毛を切ると母方の兄弟（所によっては叔父）が死ぬという迷信があるので、2月2日を待ってこの日に散髪する人が多い。筆者が大連に赴任した時にこの日になると多くの人が理髪店に行ったのを思い出す。

～・～・～・～・～・～

■ 3月——

★上巳(旧暦 3月 3日)

1月に登場した人日と共に、古くから伝わる五節句の一つに数えられる。他には5月5日、7月7日、9月9日（すべて旧暦）がある。

古代中国では、3月最初の巳（へび）の日に水辺で身の邪気を祓う風習があったようだ。日本でも古い形のひな祭りとして、紙の人型に身の汚れを移し



川に流す風習が残っている。昔は男女の別なく、厄払いとして流し雛の行事が行われていて、特に女の子の祭との認識はない。

へびは脱皮を繰り返しながら大きく成長することから、子供の健やかな成長を祈る行事として定着していった。

日本では、昔から女の子が「ひいな遊び（雛遊び）」として遊んでいた人形が、この流し雛に近づいていった。厄払いとしての流し雛は室町時代以降、徐々に飾るひな人形に変貌していったようだ。特に江戸時代には、上流社会の娘の嫁入りには、嫁ぎ先での災難を娘の身代わりとなって受けるようにと、親たちが立派な雛段飾りを持たせるようになった。

またこの季節桃の花の開花が見られるので、女の子の祭として定着していったとおもわれる。

★啓蟄(旧暦 3月 5日頃)

これは二十四節季の一つとしてよく知られているが、中国では「惊蟄」（＝驚蟄）と書き二十四節季の中で、唯一中国と日本で名称が異なる。これは漢朝第6代皇帝景帝の諱（いみな）が、「啓」であるためこれを忌避して、意味が似ている「驚」の字で代用したのが由来、とある資料に書かれているが、私にはどかが似ているのか分からない。しかし、考えてみれば、冬眠していた虫たちが、春の到来に驚いて地中から這い出して来る様子が目に見えるようで、悪くないと思う。

皇帝の名を憚って変更した名称は、代替わり、あるいは朝廷の交代で元に戻ったが、変更された名称の方が人々に好まれ、そのまま定着したものだ。日本では中国で「啓蟄」と書いていた時代に伝わったまなのでこの文字にしている。

## ■アジア音楽舞踏演奏会 寺西 俊英

12月20日に練馬文化センターで18時から「アジア音楽舞踏演奏会」が開かれました。主催は、NPO法人「東方文化交流会」です。この交流会を主宰しているのが中国国歌を作詞した田漢（作曲は聂耳）の姪にあたる田偉理事長です。今年2022年は、1972年に田中角栄と周恩来による日中国交回復からちょうど50周年に当たり、それを記念する形で演奏会が開かれたわけです。会場入り口で配られたパンフレットの表紙には、《2022年日中国交五十周年 親仁善隣 国之宝也》と書かれ、主催者の意気込みが現れていました。オープニングは「義勇軍進行曲」の合唱で始まり、次いで「田漢と李大釗<sup>注</sup>」と題する寸劇が行われました。その後、馬頭琴の演奏、太極拳の実演、そして日本側

の「祇園小唄」の合奏、黒田節の舞踊が行われるなど日中のそれぞれの歌や踊り、楽器演奏などが続きました。客席はあちこちで中国語が飛び交い、在日の中国人の皆さんが演奏会を楽しみに来場されている様子が伺えました。

演奏会のフィナーレは、歌手であり俳優でもある田偉さんの歌、「現代京劇」と「母」で無事終了しました。

■注 李大釗(り だいしょう)：(1889～1927)1914年早稲田大学に留学。1921年中国共産党を創立した。1927年張作霖に捕まり処刑される。

~~~~~

## ■‘わんりい’から、新年会のお知らせ

2022年、明けましておめでとうございます。

改めまして、新年会のご案内です。12月下旬の状況では、オミクロン株の市中感染も始まったようで、行政がどのような策を講じるのか、ちょっと微妙な状況です。‘わんりい’事務局は、ダメ元覚悟で新年会の準備を進めています。状況により、急遽中止も織り込んで、お申込みいただけるようだと、大歓迎です。

何とか、2年ぶりの新年会を開催できるようにと心から祈念しております。



開会時に田偉理事長のリードで「義勇軍進行曲」を歌う出演者



馬頭琴の演奏風景

### ◇ 満伯画伯の漢訳俳句 ◇

江戸時代の女流歌人・俳人、  
田 捨女 六歳の時の句

雪の朝  
二の字二の字の  
下駄の跡

èr zì fù èr zì  
二字复 二字  
cháo xuě mù lǚ hén  
朝雪木履痕

## 【わんりいの催し】

皆様のご参加を歓迎します

### ♪ ボイス・トレで日本語の歌を歌おう！

身体力を抜いて気持ちよく発声しよう！  
声は健康のバロメーター！！

\*動きやすい服装でご参加ください。\*

- 会場：まちだ中央公民館
- 日時：1月25日(火) 10:00~11:30  
視聴覚室  
2月1日(火) 10:00~11:30  
美術工芸室
- 講師：Emme [エメ] (歌手)
- 会費：1,500円 (講師謝礼・会場費)
- 定員：15名 (原則として)
- 申込：☎042-735-7187 (鈴木)

~~~~~

### ❀❀ 中国語で読む 漢詩の会 ❀❀

漢詩で磨く中国語の発音！中国語のリズムで読んで漢詩のすばらしさを味わおう！

- 会場：まちだ中央公民館 視聴覚室
- 日時：1月16日(日)10:00~11:30  
2月13日(日)10:00~11:30
- 講師：植田渥雄先生  
桜美林大学名誉教授
- 会費：1,500円 (会場費・講師謝礼)
- 定員：20名 (原則として)
- 申込：☎090-1425-0472 (寺西)  
Email:ukiuki65jpp@yahoo.co.jp

(有為楠)



#### ■ 1月・2月定例会 代表宅

- ▼ 1月13日(木)13:45~
- ▼ 2月10日(木)13:45~

#### ■ 'わんりい' 発送 三輪センター

- ▼ 2月は休刊
- ▼ 3月号：3月2日(水)10:00~

### ☆☆ 編集後記 ☆☆

明けましておめでとうございます。

コロナ禍の収束が見通しを得られないまま新年を迎えましたが、新年は新年。何事にも、心新たに当たろうと思えるから不思議です。この際ですから、個人のコロナ対策をもう一度確認して、一人一人がコロナに感染しないようにしましょう。

コビット19というウイルスは、人に感染しないと増殖出来ない特性があるとか。個人の感染がなくなれば消滅するそうです。

海外から入って来るウイルスに対しては、入国者全員を一定期間留め置いて、ウイルス保持者でないことを確認して帰宅を許可すれば、帰宅後に発症するケースがなくなり、その家族から市中感染することはなくなると思います。こんなことはできませんね。そうです、これは2022年の初夢として見る夢物語です。

~.~.~.~.~.~.~.~.~

'わんりい'は、新入会をいつでも歓迎します

年会費：1800円、入会金なし

郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりい

10月以降の入会は、当年度会費1000円。

■ 問合せ：044-986-4195 (寺西)

### 'わんりい' 270号の主な目次

寺子屋 四字成語(49)驚惶失措	2
「日译诗词」(19)杜甫の絶句二首	3
寅年とことわざ	4
「漢詩の会」だより (54)	5
「中原」雑感(18)河南省を回る友好提携都市	7
中国の面白い神話伝奇物語(11)中国のお正月	9
秦皇島をご存知ですか (11)	11
四姑娘山 写真だより (50)	13
「私の読んだ小説」(下)	15
陰曆に基づく中国の行事	17
みんなの広場	19
わんりいの催し	20